
2019年10月27日(日) 国崎 ウタセ真鯛 功成丸 ツレと
大潮:旧9/29 干潮 11:41(43cm) 満潮 17:19(216cm) 干潮 23:33(27cm) 鳥羽
自分 マダイ 10尾 ウマズラハギ 34cm1尾 ガシ1尾
ツレ マダイ 7尾 マハタ38cm他 2尾
マダイ:31・32cm 6尾 25cm 9尾 20cm2尾(リリース)

12時ごろ 出船

17時19分 満潮 (鳥羽216cm)

17時45分 沖上がり

【料金】 乗り合い 12,000円 氷付き 釣り座は抽選

10月より消費税アップに伴い「仕掛け付き」がなくなった。

高速 土日割引 ¥2,040×2(往復) 消費税アップに伴い10月より40円アップ

【仕掛け】 電動リール 竿受け エビ用網 錘 30号～60号

※魚を絞めるため、‘かんこ’から魚をすくうためのタモとゴム手袋を持参

竿 ウタセ真鯛用(自分) マダイ用竿(ツレ)

自作仕掛け

ハリス5号120cm 幹糸5号 枝間140cm 伊勢尼12号3本鉤 捨て糸3号50cm

ハリス5号150cm 幹糸5号 枝間170cm 伊勢尼12号3本鉤 捨て糸3号50cm

※前回、船長よりハリスは1mで十分だろうと言われたことから、自分は120cmで、ツレは150cmで釣ることにした。

【様子】

○週間予報の天気図を見て月曜日に予約した。シーズン中は早くから予約しないと満席になる。

○天気は晴れ、風は微風。予報では北の風、弱くだった。船の揺れはほとんどなし。

○それでも酔い止めを出船予定(11時30分)の2時間前(9時30分)に飲んでおいた。当然、酔わなかった。

○残りくじを引いた。8番中7番だった。左舷ミヨシから2人目3人目にとまった。ツレは少しでも揺れの少ないところということで3番目に入った。自分は2番目である。

○初め、船から遠ざかる向きに仕掛けが流れた。途中から艫に流れたり、時には船首の方に流れたりした。風が弱いことからか風向きがはっきりしないようで、錨を打つものの船が安定しない。

○「錘は50号か60号」とアナウンスがあった。船から遠ざかる向きに仕掛けが流れたので40号をセットして、おぼせ釣法を行った。

○浮き上がっているおもりを底まで落とし、さらに道糸を3mだして、潮流で糸が張るのを待つということ(おぼせ釣法)を3回くらいして待っていたら、当たりがあった。マダイだった。糸は75mくらいまで出ていた。

○電動リールだから90mくらいまでは出せるだろうか。手巻きなら50mまでが限界だったと記憶している。

○錘を3回捨てたら(道糸を出したら)、餌のチェックをすることにした。

○これで、2～3尾釣った。

○風の影響で船が決まった位置に固定されないようで、ときどき船のかけ直しをした。

○ウタセ真鯛釣りは根掛かりしないのが普通だが、根掛かりをしてしまった。何とか外れた。仕掛けは無

事だった。その後、「魚礁の上に来ているので根掛かりに注意して」とアナウンスがあった。

- おぼせ釣法はできないということである。
- 右隣の人が釣り方を教えてくれた。「ゆっくり竿を立ててくると、小さなあたりがあるから、それを掛ける。それを合わせる。これなら餌取りの当たりも分かる。」とのこと。
- この話を聞いて【釣り方1】のように釣った。
- これで数を伸ばした。ダブルも1回あった。夕まずめ前から夕まずめにかけての頃だった。
- この間、ツレは根掛かりで仕掛けをなくした。根掛かりには注意していたとのこと。船上で、ハリス150cm 3本鉤の仕掛けを購入した。500円だった。ところが、また、すぐに根掛かりした。おもりと下のハリスがなくなっていた。船長さんに2本鉤仕掛けに作り直してもらった。
- 暗くなってきた。餌チェックで餌が残ってくる。餌取りがいなくなった。餌取りがいなくて底で待つことにした。しばらくして当たりがあった。大きく合わせた。かなり引く。上の鉤に30cmクラスが、下の鉤に25cmクラスのタイが掛かっていた。
- 当たりが遠のいたこと、餌取りがいなくてから、置き竿にして、かんこの魚を締めることにした。
- 締め終わったとき、「当たりがないので終了します。」とアナウンスがあった。午後5時45分だった。日が沈み真っ暗になっていた。この間、当たりはなかった。餌も残っていた。
- 左舷、艫から2人目の人がワラサを2本釣り上げた。巻いたエビがそちらに流れたのだろう。ウタセ真鯛釣りでは釣り座が釣果に大きく影響する。そこに座った人は4番くじだったと思う。乗るときに釣り座はどこが有利かを船長に聞くものの、やはり行ってみないと分からないのである。
- 自分たちは8番中7番くじで、ほとんど釣り座は選べない。7番くじで、この釣果なら、まずまずかな。

【釣り方1】

※餌取りが多いとき、餌取りを掛けに行くときに使う。(餌取りにカワハギが混じっていることもある。)

※おぼせ釣法が使えないときに行う。

- 教えてもらった釣り方は、「ゆっくり竿を立ててくると、小さなあたりがあるから、それを掛ける。それを合わせる。これなら餌取りの当たりも分かる。」であった。その人は、竿を大きく振り上げ、その後、竿先を戻していた。
- 竿を大きく振り上げ、その後、竿先を戻すと、仕掛けが絡まるが多かったことから、次のようにした。
- 「竿先をゆっくり大きく振り上げる。竿先が上まできたら待つ。当たりがなければ、リールを3回巻きながら竿先を下げる。イメージとしては、竿で2m仕掛けを持ち上げ、仕掛けの位置は変えずに竿先を下げてくるという感じである。
- これを2回繰り返す、それでも当たりがなければ、仕掛けを底まで落として、やり直す。これで掛からなければ、餌をチェックする。
- 竿を持ち上げてくるときや、竿を振りきって待っているときに当たりがあった。当たりがあったら、高速で糸を巻き上げ、これにより竿先が下がったら合わせる。タイが乗っていると、グングンと竿先が引かれる。乗っていなければ、もう一度試みたり、餌をチェックしたりした。

【釣り方2】

- 隣の人に釣り方を教えてもらったあと、次のようなアナウンスがあった。
- 「当たりがないようなら、電動リールでゆっくり巻き上げてくる。」
- 釣り方1で釣れていたもので、この釣り方はやらなかった。

【隣の人の釣り方から】

- 釣り方を教えてくれた右隣の人は、竿を大きく振り上げ、その後、竿先を戻していた。
- 自分の経験では、竿を大きく振り上げ、その後、竿先を戻すと、仕掛けが絡まるが多かったが、その人は、絡んでいなかった。

○絡まるときは潮の流れがないときだっただろうか。この人はハリスが太く長い。太いハリスだからだろうか
【ハリスの長さ 120cmか150cmか】

○ツレはハリスがよれていたり、絡んでいたりすることが多かった。これを直すために、仕掛けを投入するまでの時間が長くなったとのこと。仕掛けが長かったことが要因であろう。

○今回、ハリスの長さに釣果の差が感じられなかった。むしろ、短い方が良かった。仕掛けを直す手間は短い方が良いし、扱いやすい。また、今回教えてもらった釣り方では短い方が有利であろう。

○隣の人はハリスが長く太い。ハリスは太い方が扱いやすい。

○キスの仕掛けでも、自作仕掛けでは全長が短い。手前祭りをなくす、お祭りしたときでも解きやすい、手返しが速くなるという理由から、2本鉤にして全長も短い。

→ 以上のことから、ハリス・幹糸とも6号にする。ハリスの長さは100cmと120cmで試してみる。

【マダイとチダイ】

○釣ったタイはすべてマダイと思っていたが、よくよく調べてみたら、チダイが混ざっていることに気づいた。改めて、ネットでマダイとチダイの違いを調べた。

<マダイとチダイのちがひ>

①尻尾の端が黒いのがマダイ、黒くないのがチダイ。

②エラの上部が血でにじんでいるように少し赤いのがチダイ(チダイの名の由来)。マダイにはない。

③背びれのとげが、マダイはキレイの揃っているが、チダイは2番目、3番目のとげが長い。

④チダイは、おでこが張り出して角ばったようになっている。しかし、小さな魚体にはない。